

大阪市立三先小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった	B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
------	--------------------------------------	--

年度目標	達成状況
【視点1. 学力の向上】 ① 今年度の「学習理解度到達診断」において、各学年・各教科の全体平均点が、低学年は80%、中学年は75%、高学年は70%を上回っている。（カリキュラム改革） ② 今年度末の「学校アンケート」で、児童用の「国語がわかる」「算数がわかる」、保護者用の「読み・書き・計算などの基礎学力がしっかり身につけている」の項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と答える割合を70%以上とする。（カリキュラム改革） ③ 今年度末の「学校アンケート」（保護者用・児童用）で、「家で自分から進んで学習している」と答える割合を70%以上とする。（カリキュラム改革） ④ 全学年において、「外国語（英語）授業」が、年間指導計画に基づいた時数を確保して実施できている。（グローバル改革）	B

年度目標の達成に向けた取組内容・取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基礎学力の定着】 家庭学習、小テスト（漢字、計算）等による基礎学力の定着（カリキュラム改革） （指標）小テスト（漢字、計算）に復習問題を適宜取り入れて実施し、漢字においては正答率80%以上をめざす。学期ごとの「計算のたしかめ」においては正答率が低学年は90%、中、高学年は80%以上をめざす。	C
取組内容②【習熟度別少人数授業の充実】 習熟度別授業のクラス編成におけるアンケートの実施（カリキュラム改革） （指標）コース選択時、単元ごとにアンケートを行う。また、単元終了時にもアンケートを行い、各コースでの学習について「よくわかった・どちらかというとうわかった」と答える割合を80%以上にする。	A
取組内容③【自主学習習慣の確立】 家庭学習の定着をめざした継続指導（カリキュラム改革） （指標）「家庭学習」の意欲・関心の向上を図るため、各クラスまたは学年で、児童が見合いすることができる場を学期に1回以上もつようにする。また、「家庭学習のすすめ」を年3回配布する。	B
取組内容④【英語教育の強化】 全学年の児童に対する「外国語（英語）」の推進（グローバル改革） （指標）「外国語（英語）」の年間指導計画に基づいて、授業時数（低・中学年は年間6時間、高学年は年間35時間）を確保する。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①小テスト（漢字・計算）に練習問題を取り入れて実施した結果、漢字の正答率は1学期が82.5%、2学期が83.9%であった。「計算のたしかめ」においては、3年生以上が目標の数値に達していないものがあつたが、学期を追うごとに確実に正答率が上がっており、日々の取り組みやチャレンジ月間での取り組みの成果と見られる。「学習理解度到達診断」では、中学年の国語・算数、高学年の国語・算数・社会で目標値を達成した。 ②学期に一単元、国語科と算数科で習熟度別少人数授業を行った。学習前と学習後にアンケートを行い、「よくわかった」「どちらかというとうわかった」と答える割合が89.6%であった。「学校アンケート」では児童用国語85%、算数84%、保護者用91%であった。 ③「家庭学習」については定着しており、「学校アンケート」では保護者用83%、児童用74%であった。「家庭学習のすすめ」を年3回配布することで、保護者への啓発にもなった。 ④低・中学年は10月より一か月に1時間で計6時間、高学年は年間35時間、外国語に取り組んだ。低・中学年用のCDを購入したことで、教材の充実が図れた。また、Cネットと共に給食を食べることで、外国語への意識も高くなった。
次年度への改善点
①引き続き練習問題を取り入れた小テストに取り組み、基礎学力の定着を図る。「計算のたしかめ」は、年2回の実施とする。 ②習熟度別学習・少人数学習を確実に実施するための時間割調整をする。また、「学習理解度到達診断」「全国学力・学習状況調査」の結果をふまえ、正答率の低かった分野で実施するようにする。 ③家庭学習については個人差が大きいので、できるだけ掲示や発表・紹介の場を持つようにする。 ④引き続き実施し、学習参観でその活動の様子を見ていただけるようにする。

大阪市立三先小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点2. 健康・体力の保持増進】 ①□平成26年度の「新体力テスト」において、実施する学年(3～6年)の合計得点の平均点を25年度より上回る。(カリキュラム改革) ② 今年度末の「学校アンケート」(保護者・児童用)で、「授業中に(家庭で)正しい姿勢を心がけている」と答える割合を70%以上とする。(カリキュラム改革) ③ 今年度末の「学校アンケート」(保護者・児童用)で、「給食を残さず食べようとしている」「家庭で好き嫌いなく食べ、良い食習慣が身に付いている」と答える割合を70%以上とする。(カリキュラム改革)	B

年度目標の達成に向けた取組内容・取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【体育科の授業の充実】 体育の授業において、瞬発力をきたえる運動の充実 (カリキュラム改革) (指標) 「新体力テスト」の合計得点の平均点が25年度より上回る。	A
取組内容②【体力づくりへの意識向上】 毎月の清潔検査時に姿勢についてのアンケートを実施し、その結果をふまえた指導の継続 (カリキュラム改革) (指標) 「学校アンケート」の姿勢の項目の結果を70%以上にする。	B
取組内容③【食育の推進】 好き嫌いなく食べようとする意識を高めるための給食だより・食育だより等やがんばりカードの作成、および、栄養指導での「食育」の充実 (カリキュラム改革) (指標) 「学校アンケート」の結果を70%以上にする。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①体育の授業において瞬発力をきたえる運動の充実を図り、どの学年でも「新体力テスト」の合計得点の平均が25年度を上回った。 ②保護者のアンケートや児童のアンケートで全体としては70%の目標を達成することができたが、学年によってばらつきがあった。 ③給食だより・食育だよりやがんばりカード、栄養指導により、好き嫌いなく食べようとする意識が高まり、「学校アンケート」の結果を70%以上にすることができた。(児童94%、保護者87%)	
次年度への改善点	
①今年度の「新体力テスト」の結果を分析し、次年度の取り組みを決める。 学年によって課題が違うので、各学年に合った取り組みをしていく。 ②保護者のアンケートでは「正しい姿勢を心がけて生活している」という項目であったので対象となる姿勢のバラつきがあったかもしれない。次年度は意識の統一がはかれるように、「学習している時」や「食事をしている時」とする必要がある。 意識づけるための日々の声掛けを継続していく。 ③栄養指導を継続して行い、食育を充実させる。 残り、数%の児童への個別指導の継続。	

大阪市立三先小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点3. 道徳心・社会性の育成】 ① 平成26年度の校内調査において認知した「いじめ」について、解消に向けて対応している割合を100%にする。（カリキュラム改革） ② 自ら進んであいさつができる児童の育成を図り、本年度末「学校アンケート」で「自分から進んであいさつができている」と答える児童の割合を85%以上にする。（カリキュラム改革） ③ 年間を通して計画的に防災教育を行い、児童アンケートで「学校や家庭・地域で地震が起こったときどう行動したらいいか知っている」と答える児童の割合を90%以上とする。（カリキュラム改革）	A

年度目標の達成に向けた取組内容・取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【自尊感情の育成】 「自分を大切に」「友だちを大切に」といった自尊感情を育てる教育を実施し、いじめをはじめとした事象に100%対応する。（カリキュラム改革） （指標） いじめ等があったとき、100%対応する。	A
取組内容②【社会性の育成】 あいさつ運動を今年度も継続して実施し、あいさつの大切さを実感し、場に応じたあいさつが進んでできるように指導する。（カリキュラム改革） （指標） 本年度末「学校アンケート」で「自分から進んであいさつができている」と答える児童の割合を低・中学年は85%以上、高学年は80%以上にする。	B
取組内容③【防災教育の推進】 防災教育をすすめ、災害に対応する力を身に付ける。（カリキュラム改革） （指標） 防災教育終了後、アンケートを実施し「学校や家庭・地域で地震が起こったときどう行動したらいいか知っている」と答える児童の割合を90%以上にする。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 日々の児童の様子を把握することに努め、学年・生活指導部・管理職が情報共有し、保護者とも連携しながら指導をしている。問題が起こったときは、すぐに対応し、その後も継続的に見守っている。 平成27年度全国学力学習調査状況調査では、自尊感情・規範意識について5つの設問で◎、○と回答している児童の割合が全国よりも高く、児童に自尊感情が育っているといえる。 ② 学校アンケートでは、児童生徒で94%、保護者で91%と年度目標を達成しているが、それほどあいさつがしっかりできているという実感が無い。これは、「あいさつがしっかりできている状態」に対する認識の違いと考えられる。 ③ 「三先防災の日」を設定し、津波・火災についての防災訓練を実施した。また、年間を通して防災・防犯訓練を計画通り実施した。実施後のアンケートでは、「学校や家庭・地域で災害（地震）が起こったときどう行動したらいいか知っている」と答えた児童の割合は、98%で指標を達成することができた。

次年度への改善点
① 継続して指導していく ② 児童には、相手にとって気持ちのよいあいさつとはどのようなものかを考えさせていく必要がある。あいさつ運動の他にも学校生活全体で気持ちのよいあいさつについて啓発していく。 ③ 6年間を見据えた継続的な安全・防災教育のカリキュラムを整備する。また、毎年内容を変えたり、校内だけでなく地域にも活動を広げたりして、防災意識が高まっていくように活動内容の改善・工夫をしていく。

大阪市立三先小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点4．特別支援教育の充実】 ① 児童の実態を把握し、一人一人のニーズに応えるために、保護者との話し合いを活かして「個別的教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成する。これを活かして全教職員で共通理解を図り、具体的な指導、支援方法の研修会を年2回実施する。（カリキュラム改革）	B

年度目標の達成に向けた取組内容・取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①－1【特別支援教育の充実】 「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を活かした研修会の実施（カリキュラム改革） （指標） 特別支援児童理解研修会を年2回以上実施し、年間を通して児童が指導計画に挙げられている内容を1つ以上達成する。	A
取組内容①－2【特別支援教育の充実】 年に1回以上他校の研修会に参加し、ICT機器を利用した支援活動の研修を深める。（カリキュラム改革） （指標） ICT機器を利用した支援活動の研修を深める。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①－1 特別支援児童理解研修会を年2回実施し、全教職員で共通理解を図ることができた。特別支援教育校内委員会を実施し、児童の現状を把握し相談することができた。さらに、その他（プール前研修等）の研修も実施した。 ①－2 ICT機器を利用した支援活動の研究授業を実施し、研修を深めることができた。

次年度への改善点
①－1 研修会を行う時に活用しやすいアセスメントシートを充実させる。六年間、継続して共通理解を図るようにしていく。 ①－2 ICT機器の研修を深め、知りえた情報を支援学級だけでなく、通常学級でも活用できる研修を実施し、広めていく。

大阪市立三先小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点5. 学校・保護者・地域の連携の推進】 ① 学校ホームページや学校だより・学年だより等による広報活動を充実させ、平成26年度末「学校アンケート」（保護者用）において「学校は情報公開を行っている」と答える保護者の割合を80%以上にする。（ガバナンス改革）	A

年度目標の達成に向けた取組内容・取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【学校・保護者・地域の連携の推進】 学校行事をはじめ、学年や各部等の取り組みを随時更新し、家庭・地域への情報公開を行う。（ガバナンス改革） （指標） 「学校アンケート」（保護者用）において「学校は情報公開を行っている」と答える保護者の割合を80%以上にする。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①学校行事や、学年や各部等の取り組みをホームページに随時更新することができた。また、学校だよりや学年・学級だより等で、お知らせや学校生活のようす等の広報活動を充実することができた。学校アンケートの結果は94%であった。

次年度への改善点
・アクセス数を増やすために、学校だよりや学年だより、更新したことを定期的に知らせる。 ・個人情報に留意する視点（対児童、対職員）は常に持ちながら、引き続き取り組みを続ける。

大阪市立三先小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点6. 教員の研修の充実】 ① 全教員が年1回以上、研究・公開授業を行う。（マネジメント改革） ② 若手教員の指導力向上を図るために、年5回以上様々な形態で研修を実施する。（マネジメント改革）	A

年度目標の達成に向けた取組内容・取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【教員の研修の充実】 全教員による研究・公開授業の実施（マネジメント改革） （指標） 全教員が年1回以上研究・公開授業を実施し、指導力の向上を図ると共によりよい授業づくりによる学力の向上を目指す。	A
取組内容②【若手教員の指導力の向上】 年5回以上の若手研修の実施（マネジメント改革） （指標） 若手教員が必要とする実技研修や伝達研修を年5回以上実施して交流を深め、指導力の向上を図る。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①全教員が年1回以上、研究・公開授業を実施するよう計画を立て、計画通り実施できた。研究授業と公開授業を同一単元で実施することで、研究がより深まり、討議会も効率よく実施できた。「表現力の育成」をテーマに教材研究に取り組んだ結果、楽しんで書く姿が見られるようになった。 ②年間計画に基づいて計画通り実施できた。ベテラン教職員による研修会を持つことで研修を深めたり、若手教員同士の伝達研修で、教師力の向上を図ったりすることができた。

次年度への改善点
①今年度までの研究を振り返って見えてきた課題を改善するため、来年度の研究の方向性を決める。 ②メンターを中心に、今年度実施されなかったテーマでの研修や伝達研修に取り組む。また、若手研修や個人研修の内容を広めるため、資料を全員に配布するようにする。